

## 調べて作ろう —冬野菜編—

三石小学校・堂本 恭平・上田 真由美

### 1. はじめに

1学期には、児童は「調べて作ろう—夏野菜編—」を学習した。野菜作りや販売を通して、たくさんの苦労や喜びを感じるとともに、活動を支えてくれた人々の存在に気がついた。社会科の「わたしたちの食生活と食料生産」の学習と関連させることで、より学習が深まると考えた。

### 2. 単元の目標

知識・技能

栽培活動に取り組むことを通して、お雑煮などの食文化を学ぶ。

思考・判断・表現

日本の文化のすばらしさを知り、多面的多角的に考えたことをまとめて発表することができる。

主体的に学習に取り組む態度

野菜作りを通して、自分の知りたいこと・調べたいことを明確にして調べ、地域の食文化を引き継いでいこうとする意欲を持つとともに、活動することができる。

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

春から夏にかけて、夏野菜の栽培活動に取り組んできた。その経験を生かして、秋・冬野菜の栽培活動に取り組む。野菜の栽培方法を調べたり、まとめたりする活動を通して、友達と協力して活動することの良さや重要性を感じることができる教材である。また、目的を持って活動する中で、見通しをもって計画し、実行する行動力が身につくと考えられる。そして、自分たちの活動を支えてくれる人々の存在に気づき、感謝の念を持つことで、その後の活動への意欲につながると考えられる。

#### (2) 児童観

児童は、何事にも前向きに取り組む事ができる児童が多い。「調べて作ろう—夏野菜編—」では、いろいろな種類の夏野菜を栽培した。とれた野菜は、自分たちで味わったり、無人販売所を設置して野菜を販売したりした。そのような活動を通して、自分たちのがんばりを地域の人々に向けて発信することを体験している。

#### (3) 指導観

夏野菜を栽培した経験を想起し、その活動を支えてくれた人々の存在に気づかせる。そして、その人々に感謝の気持ちを持つとともに、今後の活動について考えさせる。秋・冬野菜を栽培するにあたって、「お世話になった方々に感謝の気持ちを感謝祭で伝えることを目的に活動する。」という見通しをもたせる。その過程で、食の多様性を知り、三石台という地域の特性にも気づかせる。

秋・冬にかけて育てることのできる野菜について調べ、その栽培方法についてグループでまとめさせ

る。それと同時に栽培活動に全員で取り組んでいく。

冬休みの宿題でそれぞれの家庭の雑煮について調べて交流することで、食の多様性を知るとともに、日本には様々な種類の雑煮があることに気づかせたい。また、三石台の住民がいろいろな地域から集まってきたという地域性についてもふれたい。

自分たちが栽培したもの(餅米、小豆、サツマイモ、大根、白菜、カブなど)を使って雑煮を調理させる。その中で、責任を持って活動することの大切さや友達と協力して活動することの良さに気づかせたい。収穫した米と野菜を使い、いろいろな地域の雑煮を調べて作る体験を通して、お世話になった方への「おもてなし」をする。

#### (4) ESDの観点

##### ①身につけさせたい ESD の視点

多様性：地域によって食の多様性があることに気づく。

連携性：友達と協力して活動する。

責任性：自分の役割に責任を持って取り組む。

##### ②養いたい価値観

・「互いの人権・文化を尊重する」

日本には、地域において継承されてきた特色ある食文化があり、それらの違いに気づき、それぞれの良さを認め尊重する態度を育てる。

##### ③養いたい能力

・協働的行動力

グループや集団での活動を通して、協調性を養い主体的に活動していく力を身につける。

・クリティカルシンキング

自分の家のお雑煮を相対的にとらえ、食文化の多様性に気づく。

#### 4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
野菜について調べ、まとめる。 調べたことを活かし、栽培活動や調理をする。	栽培学習や調べ学習を通して学んだことをまとめ発表する。	友だちと協力して活動する。 野菜や料理について、意欲的に調べ調理する。

#### 5. 単元展開の概要 (全 14 時間)

主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考
1.夏野菜を作った経験を振り返る。	・今までの経験を振り返り、活動でお世話になった人の存在に気づかせる。	◇これまでの活動を振り返り、お世話になった人の存在に気づく。
2.お世話になった人に感謝の気持ちを表す方法について話し合う。	・自分たちにできることを考え、目的を持って野菜作りに取り組んでいけるようにする。	◇今後の活動について積極的に話し合う。

<p>3.秋・冬に育てることのできる野菜について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からないことはインターネットや図書を利用して調べてよいことを伝える。</li> </ul>	<p>◇調べる内容を決めて、ワークシートに記入する。</p>
<p>4.野菜について調べる。 実際に栽培活動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報の探し方を伝える。</li> </ul>	<p>◇必要な情報を見つけ、ワークシートに記入する。</p>
<p>5.調べたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく伝えることを意識して取り組ませる。</li> </ul>	<p>◇友達と協力して取り組み、模造紙にまとめる。</p>
<p>6.しめ縄作りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を活用する。</li> </ul>	<p>◇興味を持って活動する。</p>
<p>7.お雑煮調べをし、交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休みに調べてきたことを交流させ、いろいろな雑煮があることに気づかせる。</li> </ul>	<p>◇雑煮の地域性に気づくことができる。</p>
<p>8.全国のお雑煮を知り、興味を持った地域のお雑煮の作り方を調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用させる。</li> </ul>	<p>◇必要な情報を見つけ、ワークシートに記入する。</p>
<p>9～10.餅つき体験とぜんざい作りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に配慮し、杵と臼で餅をつかせる。</li> </ul>	<p>◇意欲的に活動する。</p>
<p>11～12.お雑煮を調理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで作った野菜や餅も活用させる。</li> </ul>	<p>◇協力して計画通りに調理する。</p>
<p>13.おもてなしをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お世話になった方に感謝の気持ちを伝えさせる。</li> </ul>	<p>◇感謝の気持ちを手紙で伝える。</p>
<p>14.各都道府県のお雑煮の具材などについて詳しく調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜその具材が使われているかなど、具体的に調べさせる。</li> </ul>	<p>◇必要な情報を探し、まとめる。</p>
<p>15.調べたことを共有し、それをもとに雑煮について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お雑煮の由来や具材の意味から、そこに込められた意味を知ることができるようにする。</li> </ul>	<p>◇友達の調べたこともふまえて、雑煮の意味について考える。</p>
<p>16～18.1年間の総合的な学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの活動を振りかえらせ、どのような学びがあったのかをまとめさせる。</li> </ul>	<p>◇伝えたいことを明確にし、わかりやすく表現する。</p>

19.まとめたことを発表する。	・パワーポイントを使って、発表させる。	◇これまでの活動を振り返り、6年生に向けて意欲を高める。
-----------------	---------------------	------------------------------

## 6. 成果と課題

- ・1学期の夏野菜作りで、野菜を販売していたところにノートを置いておき、買ってくれた人に一言メッセージを書いてもらえるようお願いした。そこには、保護者等からの感謝や励ましの言葉が書かれており、それをきっかけに冬野菜作りをスタートすることができた。活動に対する動機付けや教材への興味・関心を持たせる手段としては有効であったと考える。
- ・夏野菜に比べて、冬野菜は水やりなどの必要が少なく、手間がかからない。このため、子どもたちの野菜への愛情が深まりにくかった。この点においては、夏野菜作り活動の方が、効果的である。
- ・学校外でもち米作りを行ったので、ほとんど地域の方がもち米の世話をしてくれた。日々の観察や世話などの時間を確保できなかったので、「自分たちで育てた。」という実感や、地域の方への感謝の気持ちが高まりにくかった。地域の方からいただいた写真を掲示することで、稲や畑の様子を児童に知らせていくのみにとどまってしまったので、実際に足を運んでみる機会を設けることが必要だと思った。
- ・野菜やもち米は、おおむね収穫することができたので、児童はとても喜んでいて、そして、それらを使ってできる餅つきや雑煮作りの活動につなげることができた。自分たちが作ったものを使って調理するという体験を通して、地産地消も体験できた。
- ・「お雑煮調べ」では、保護者の方も興味関心をもって協力してくれた。児童も意欲的に取り組むことができた。その交流を通して、様々な地域の雑煮があることを知ると同時に、三石の地域性に気づくこともできた。また、学校での取り組みに各家庭を巻き込んで学習を進めることができた。
- ・稲刈りやしめ縄づくり、餅つき、雑煮作りを体験することで、様々な日本の伝統にふれることができた。体験したことから、もっと調べてみたい、やってみてみたいという意欲が児童に生まれたことは、これから先の日本の伝統文化を引き継いでいくことにつながるのではないかと思う。
- ・この学習を通して、三石台の地域性だけでなく、日本の食文化の多様性に気づき、地域を舞台にしたESDの実践になったと考える。



にんじんの種まき



稲刈り



野菜調べ



カブの収穫



餅つき体験



お雑煮作り